

「たすけてわたしのスーパーガール！」

脚本・竜崎だいち

〈登場人物〉

・森永マイコ …… 女 漫画家

\* \* \*

女が机に突っ伏している。目が悪くなりそうな距離。

メガネの女、何かを書いているようだが、それは文字ではないようだ。時折長い線を引いたり、細かく書き込んでみたり。

描き慣れた様子で鉛筆を走らせている。

何かをぶつぶつ呟いていたりもする。

女の格好は、結構小洒落ている。いわゆる、おめかしをしている。

度の強そうなメガネがちよつと浮いている。

ふと、ペンが止まる。

顔を上げずに不自然に、ペンを置く女。

顔を上げずに不自然に、手元のカップに手を伸ばす女。

やはり顔を上げずに不自然に、飲み物を飲もうとするが。

カップは、空だった。

女、突然、咆哮。

マイコ

っあーっ！

マイコ、独白を始める。

マイコ

飲み切ってるし、コーヒー飲み切ってるし、まだ全然出来てないのに、まだ全然出来てないのに！ いや出来るわけないって、この状況で、この状況で！ え待って、ありえない、なんでこうなった？ いや、嬉しくないわけじゃないのよ、ていうか、こんなめちゃくちゃ嬉しいよ！ 脇汗ひどいし！ 手汗もひどいし！ 体温がぐん上がってるし、体中顔中汗ふき出してまじでやばいし、ネームやってる風だけど全然進んでないからね、進むわけないじゃん、え待って、ほんと、どうしたらいい？ 落ち着け、落ち着けないって！ 待ってわたし、支離滅裂、まじで、落ち着け、落ち着けないし！

マイコ、ハチャメチャに、支離滅裂。

マイコ

いや、あのですね、わたしがこんななんなんになってる理由はちゃあん

とありましてですね、あの、女子だったら絶対分かってくれると思うんですけど、いやわたし一般女性がこんな時どうするかとか全然分らないからあれなんですけど、……………あの。(さんざっぱら思い悩んだ挙句に)……………いるんです、そこに、彼が。いや彼って言っても別にわたしの彼とか彼氏とかじゃ全然ないから全然全然全然そこはカン違いしないで欲しいんですけど！ あの……………片思いの、彼が、そこに、座って、いまして。

……………え待って、なにこれ、めっちゃめっちゃ、恥ずかしいんですけど。

マイコ、今までガリガリと何かを書いていたノートを手に取り、見つめる。そこに描かれた「彼女」と目が合う。

「彼女」は明るく元気に微笑んでいる。

彼女に助けを乞うように、ノートに額を押し付けるマイコ。ややあって、顔を上げて。

マイコ

一目惚れでした、ええ、一階にあるローソンの店員くん、兔田(うさぎだ)くん、これ彼の名前、半年前、いつものようにこの店でネームを切り終えて、クツクツの脳みそ抱えてローソン行って、ご褒美のスイーツどっさり買いたかごに入れてレジに並んだその時だったんです、星野源、ううん本人じゃないですよでも星野源、みたいな、クシュっとした味のある笑顔、これ完全に褒め言葉ですから、これ完っ全に褒め言葉ですから、クツクツの脳みそに彼の笑顔が秒で吸収されてった、浸透率1000パーセント驚異的な速さで心臓がガンってなった、買い込んだ千円分のスイーツを丁寧に袋に入れてくれて、なんで一個とかにしなかったわたし大食らいに思われたあファーストインプレッション最悪う、お釣りとレシートきっちり別々で手渡してくれた兔田くん、ネームプレートをとっさにチェックして覚えた名前兔田くん、兔田くん、名前可愛いっ、気がついたら家で、握りしめたまんまになってたお釣りをやっとの思いで財布に戻そうとしたそのときに、自分の手のここが、真っ白なブラウスの裾が、鉛筆で真っ黒になってるのを見つけて、……………まじか。一気にへこたれた。

マイコ、毒づく。

マイコ

漫画家やっています、はい、少女漫画家です、少女漫画描いています、学生の頃の友人には、意外よねえあんたってそんな感じじゃなかったよねーって

言われますはい隠してましたひた隠しに隠してました、漫画描きたいとか言ったらバカにされると思ってたから、っていうかわたしどんな風に思われてたんでしょね印象とかどうせ薄い感じだったと思いますけど、一応月刊誌に連載持ってます、月刊ゲンゲン、名前に似合わず少女誌です、別にいいです知らなくて刷り部数異常に少ないし、一応全国誌ですけど、これでも割と忙しいんですよ、月刊誌って週刊連載と違って楽だよねえとか言われますけど全然全然そんなことなくて、割と休みなして働いてていつも締切に追われてヒーヒー言ってます、その実、原稿料は超安いんですけど、けど、漫画描くのは楽しいですよ。そこだけが唯一の救いで。

マイコ、彼をちらと見る。

マイコ

3つ隣のテーブルで、一人でコーヒーを飲んでる彼、え待って、なにこの偶然、なんのフラグ？ 死亡フラグでしょこんなの、カランカランってドア開いて、ふって見たら信じられない、彼がいて、瞬間、血流が、通常の2.5倍の速度で流れ出したみたいになって、い、息が、死ぬよ、まじ、私服、Tシャツにジーンズ、へー、シンプルだけどこだわってる感じが超伝わってくるよねーっていうかマジでかっこいいし、っていうか超可愛い、(可愛さかっこよさにさんざっぱら悶えつつ鉛筆を走らせる)デッサンしてどうする！ あー仕事終わり？ 仕事前のコーヒータイム？ いや違うな、誰かを待ってる、あー、デートの待ち合わせ……、そうに決まってるよね、そうに決まってるよね、彼は本を読んでいる、小説、違う、あの大きさは小説じゃない、馴染み深い本の大きさ、あの厚み、いいえ、分析しなくたって秒で分かってた、心臓がバクバクうるさいそんなわけないから静まれ、けどあれはきつと、漫画本、駅前の本屋のブックカバー、何を読んでは分らないいい、いややないないないないないないない妄想が爆発的に膨らむ静まれ、ちよっとトイレ行くふりしてシレッと手元確認しようかいや無理、だろ今顔さえ上げられないのに、だいたいこれは万に一つもない妄想って分かっているの、分かっているのよお、だつてさあ、わたしが描いてるのはさあ、ティーンが対象のお、少女漫画ですからあ、ていうか今更だけど大声出しすぎとかいうのは全然全然気にしないでいいから！ 今までの全部わたしの心の中の声ですからね！ ほんとのわたしはまだここにこうやってじっと座つててさ、今までのこれ全部！ わたしの！ 心の中の出来事ですから！ 漫画家の心の声のでかさ舐めんよ！

マイコ、なり切って。

マイコ

ミンミンミラクル・ミラクルミーナ☆ お困りごとはわたしにお任せ☆  
わたしの漫画の登場人物、言っとくけど割と人気だからね、森永マイコ、  
あ、わたしの名前、の、「助けてわたしのミラクルミーナ」、コミックス最  
新刊7巻大好評発売中、普段は気ままな花屋の店員だけど、魔法の植木ば  
さみをくると一振り、魔法少女に大変身、恋に友情、テストに部活、い  
つだって少女たちの悩みを解決してくれるミラクルミーナ、傷つくことも  
あるけれど、悩んじゃうこともあるけれど、それでもミーナはくじけない、  
泣くのは嫌だー笑っちゃおー進めー♪「ミーナ、今日は生徒会長のゆりち  
ゃんからの SOS だよ」これは相棒・カピバラの妖精チャンスくん、「ミー  
ナ、町の時計台が逆回転を始めている、急いで出動だよ」「よしきた了の  
解!」ミーナは町のどんな事件も解決してくれる、迷い猫の捜索から街に  
襲いかかる巨大隕石の撃破まで、すべて解決完全無欠、なんでも出来ちゃ  
うスーパーガールなの、ネタ帳の上は自由の世界、想像力は無限大、連載が  
始まって三年半、ペンが止まった事なんかないの、普段はダサいわたしでも、  
漫画の中なら何でも出来る、ミーナだったら、兔田くんの心をガツチリキャ  
ツチするなんて、きつと赤子の手を捻るより容易いこと、ミーナだったら  
どうするだろう、ミーナだったらこんな時、「兔田くん、わたしが来たから  
にはもう大丈夫よ」「だめ、そっちは危険よ、ほら、わたしの手に捕まって」  
「兔田くん、わたしたち、風になってる!」「何か小動物に噛まれたそ  
ぶりだ……痛くない、痛くない、ね、ユバ様、この子私にくださいな」  
「雫う、あつ、兔田くん、大好きだー!」色々間違ってるけど! ねえ  
ミーナ、この状況、どうしたらいい、どうしたらいい? わかってる、い  
つもみたいに何もなかったみたいにこのまま帰ればいいんだってわかっ  
てる、でもさ、こんなチャンスそうそうないと思うんだよね、今逃したら  
次なんてもうないと思うんだよね、ねえミーナ、助けてよ。私に力貸して  
よ、だつてさ、わたしが作ってあげてんだから、あなたのお話、ねえ、助  
けてよ、兔田くんとの仲を取り持ってよ、ミラクルミーナはみんなに勇気  
を与えてるんでしょ、ファンレターだつてすごいじゃん、読者のみんなは  
あなたに助けてもらってる、ありがとうミーナ、ありがとう、先生、……  
わたしはあんな手紙もらいうようなこと何もしてないから、ねえ、助けてミ  
ーナ、あなたなら何でも出来るんでしょ、助けてミーナ、わたしが出来な  
いこと全部やってくれてんじゃん、助けてミーナ、いつも漫画の中で願望

叶えてくれてんじゃん、助けてミーナ、何にも出来ないわたしのストレス解消してくれてんじゃん、助けてミーナ、わたしのなりたいものやりたいこと全部やってくれてんじゃん、助けてミーナ！　ねえ、あんたはわたしから生まれたはずなのに、助けてミーナ！　何でわたしとあんたはこんなに違うの、助けてミーナ！　助けてミーナ！　助けてミーナ！　助けてミーナ！　あーもう喉が渇く！

手荒くカップに手を伸ばすマイコ。

しかし、カップは空だ。

我に返るマイコ。

息を吐いて。

マイコ

……コーヒー一杯で三時間粘り、ネームを切るのは月に一度のわたしの習慣。帰りに下のコンビニで、ご褒美のスイーツ買うのも月に一度のわたしの習慣。いつも兔田くんに会えるわけじゃない、けど会えなくなつて、仕方ないねと帰るだけ、好きとか言いながら、別に毎日通い詰めるわけじゃない、そんな事わたしには出来っこない、メガネを外しても、スーパーマンに変身出来るわけじゃない、部屋も汚くて料理も出来なくていつもはノーメイクでボロボロで、ミーナだけは特別、わたしの出来ないこと、言いたいこと、やりたいこと、おしゃれも恋も、全部彼女にやってもらつて、……それで満足して。ノドがカラカラ、コーヒーが捗る、カップの中はもう空だ、お会計のタイミング、席を立つタイミング、一度だけ、兔田くんと喋ったことがある、「お仕事お疲れ様です」どうして彼がそう言ったのか全く分からない、誰かと間違えたのかな、別の常連さんかな、とか、そう思いながら、けど心臓は悲しいくらいバクバクで、「あ、はい」って、それしか言えなくて、逃げるようにその場を去った、漫画みたいに簡単に両想いフラグは立たない、今この瞬間顔を上げることも、トイレに行くことも、コーヒーのお代わりだって、わたしには出来ない。

……けどそのことに、ちょっとホッとしてるわたしもいるんだ。

マイコ、机の上を片付け、お会計の札に手を伸ばす。

と、マイコのそばに、店主がやってくる。

マイコ

え。

空っぽになったカップに、コーヒーを注いでくれる。  
軽く会釈をして、その場を去る、店主。  
それは、店主からのエールだろうか。

マイコ あ……………、どうも。

マイコ、気がついたら顔を上げていた。

マイコ 夕日…………。

視界に、夕日に染まる喫茶店が映る。

マイコ ……気がついたら、カフェが茜色に染まっていた。なぜだか不意に思い出した。わたしがここでネームを切るようになった理由。初めての連載が決まって右も左もわからなくて、好きなこと描けばいいって言われたけどそもそも好きなことが何かもわからなくなっていて、抱えたノートにはミーナのラフ絵しかなくて迷ってテンパってぐちゃぐちゃだったあの頃、偶然このカフェを見つけて、その時飲んだコーヒーがむちゃくちゃ美味しくて、その時見た、夕日が綺麗だと思って。部屋も汚くて料理も出来なくていつつも締切に追われて、彼氏もいないし漫画以外にこれといった趣味もないし、そんなわたしだけど、偶然見つけたこのカフェで、おしゃれに仕事してみたって。いつもよりおめかしして、お化粧もして、もしかしたら、何か変わるかもって思って、落書きみたいに書き殴ったミーナのラフ絵が、何だか宝物みたいに覚えて、この子に託してみようかなって思って、ここに通り始めたのは、わたしがはじめたことだ。……夕日が綺麗だなあ。

マイコ、彼の座る方を見て。

マイコ 彼はまだ、そこにいた。読み切った本を閉じ、コーヒーに手を伸ばす。きつと、チャンスは一度きり。10秒後にはいつもみたいに体中から後悔があふれてあふれてダダ漏れになって、来月のミーナは休載になっちゃうかもしれないから、先に担当さんに謝っておこう。

……お気に入りのブラウスの袖元は、いつも通り、鉛筆の粉で真っ黒だ。

コーヒーを、一口、飲む。

ゆっくり、席を立つマイコ。  
軽く深呼吸をして、一歩踏み出す。  
彼女は、とつてもギクシヤクと、彼の座る机へと歩み寄る。  
途中、トイレに行くみたいにして逃げかけるが。  
なんとか思いとどまって、彼の座る机の前で歩を止める。

マイコ

……あのっ！

おしまい



【上演記録】

星時の文化基地シリーズ vol.1.0

もりとみ舞一人カフェ芝居 season2

「たすけてわたしのスーパーガール！」

脚本・演出 竜崎だいち

●日程

2019年6月27日(木)、7月25日(木)、

8月22日(木)、9月26日(木)

●会場

喫茶星時(岐阜市)

●出演

森永マイコ … もりとみ舞